

A子が緊張状態を知らず、自主的言動をとることをめざした指導

出 版 典 子

1. 対象児について

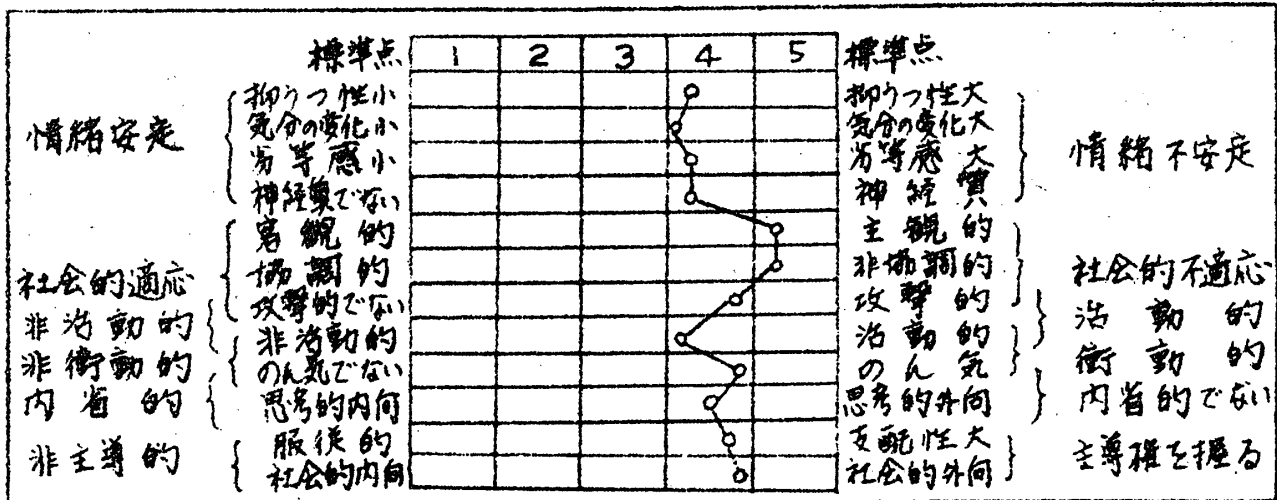
A・D(女) 昭和47年2月29日生 17歳 IQ-65 (WISC)

(1) 行動特性

A子は身辺処理能力が高く、自分のことはほぼ確実にやりとげる。また手拍の巧緻性にすぐれ、作業の正確さや仕上げの美しさという点で右に出る者はいない。反面絶えず緊張状態にあり、動作が緩慢な上、自主的言動はほとんどみられない。周囲の援助で集団への参加が図られているが、どちらかといえば「孤立傾向が強い」。

(2) 性格検査にみる実態

Y-G性格検査の結果、次のようなプロファイルがみられた。(60年4月実施)



この表からA子は「不安定不適応積極型」の性格傾向と示すことがわかる。A子の行動特性から、向性領域が外向と表示されたのは予感に反するものであるが、この結果からすれば、A子は内面に行動意欲をもちながら、現実には抑圧された生活をしているということができる。また標準点5の2項目は、A子が過敏性で人を信用しない傾向が強いことを表わしており、それが集団への適応を阻害する要因となっているのではないかと思われる。

2. 個人目標の設定と指導方針

幼時のA子はかなり活発であつたらしい。A子の行動に対して両親は口やかましく叱責したり体罰で制裁を加えたりしたため徐々におとなしくなり、小学校4年の頃から緘黙傾向が見られるようになった。動作が緩慢でしゃべらぬA子

は、学校でも「早く」、「大きな声で」、「○○をしろさい」などと指示されることが多く、絶えず周囲を気にして、緊張状態にあることが考えられる。著縮して生活しているA子は成就感や満足感を覚えることが少なく、自信をもつこともできない。従って一層、言動が消極的になる。こうしたマイナスの循環を繰り返し、小学校時代より行動の度合をみないまま現在に到っている。

上記の事実や仮説を基にして、A子が目前にひかえた社会参加に少しでも意欲的に立ち向かうためには、A子の心の緊張感を緩和し、内面にある活動意欲を引き出さねばならないと考え、目標を「緊張状態を和らげ、自主的言動のとれる子の育成」と設定した。

また指導方針は

- (1). A子とのラポートづくりに努め、信頼関係を強める。
- (2). 手指の巧緻性を生かし、満足感を与えることで自信を持たせる。
- (3). 体を動かすことで筋緊張を和らげる快感を味わわせる。

とし、指導に際しては指示、叱責で緊張させないこと。A子が唯一の話し相手としている母親と連絡をとり合い、A子の気持ちをつかむこと。以上の二点を基本的な構えとすることにした。

3. 指導の実際

- (1) 緊張状態緩和へ向けてのアプローチ
- (2) スキンシップを通してのラポートづくり — 1学期

ラポートづくりの第一歩として、A子とのスキンシップを固めることに努めた。

A子の生活年齢からすれば適した方法とはおえない面もあるが、言葉での応答には緊張感を覚えるA子に対し、言葉を介さないラポートづくりの方法として試みることにした。具体的な方法、場面、A子の反応は、以下の通りである。

方法	場面	反応
手をつなぐ	・給食時 教室から食堂への移動 ・遠足 修学旅行、校外学習における徒歩移動	「手をつなごう」と言つと、と手を出す。口に出して誘わなくても手を出せばついてくる。人に見られても離れろくとはおさない。手のひらに緊張はない。
遊具を利用した皮膚接触	・遊園地にて ジェットコースター、タイヤのブランコ、シーソーなどに乗る	笑顔をよくみせる。尖い声や叫び声かのだとで出かかっているが、顔は赤くして耐えている。日記に「楽しかった」と記す。
皮膚感覚刺激	・わきの下をくすぐる ・肩をむしむ	くすぐると体をよじり笑顔で耐える。「やめて下さい」とは言わない。「先生はおもしろい」と言ひ、肩をむしむと、フツと力をぬき、リラックスする。

この試みをとってA子はある程度心を開き、困った時の相談相手としてたり、いろいろな質問に対して自分の思いを正直に告げたりするようになった。また、表情がツシムツ和らくなり、笑顔がよくみられるようになると共に、赤面傾向がやや緩和されたのを認めることができる。

(1) 交換レポートを通してのレポートづくり — 2学期

1学期の実践の上に立って2学期は、自分の気持ちを表現することで緊張感を和らげさせたいと考え、「交換レポート」への取り組みを試みた。この提案に対してA子は、即座に賛同した。取り組みに際し、

- A子にとって担任としてではなく、女性の先輩としての立場をとる。
- 書くことを強制したり、A子の心理を無理にさぐろうとしたりしない。
- A子の問いかけには本音で答え、決して体裁を整えない。
- 秘密を保持する。

以上4項目を基本的な姿勢としている。

内容例1 --- Tを知るための働きかけの例

注 Tは担任を表す

月日	記述者	記述内容
9/11	A子	先生に聞きたいことがあります。小さいころおとなになてなりたかったのは何ですか。おしえてください。
	T	私は看護婦さんになりたかったんです。看護婦をしているおばがいてそのおばが大女子だったし、カッコいいなと思っていましたからね。それからかわいなお嫁さんになって、だんなさまにいっしょけんめいつくしてあげたいとも思っていました。今、あんまりだんなさまにつくしてあげていないから、かわいそりかな。学校の先生になりたかった時期もあります。でもね、私は子供の頃とでもはずかしがり屋で、人の前に出るのがにがてだった。今、先生になって、人の前でも平気でしゃべっているのが不思議なくらいですよ。ところで、A子さんは、卒業したらどんな人になて、どんな生活がしたいですか。
9/12	A子	まだ考えたことがないけど、自分の気持ちは、いろんな人にすかれたり、かっかかってもらったかと思っっています。しあわせな生活がしたいです。

内容例2 --- 不快感をストレートに表現している例 (9月27日は体育でA子の中途半端な態度を強く注意)

9/27	T	近頃A子さんとお話したり、キャッチボールをしたりできなくてさみしいです。A子さんはどうですか。
	A子	キャッチボールはあんまりしたくないです。
9/28	T	キャッチボールは何をしている時が楽しいんでしょう。
	A子	私は何もしたくないです。
10/1	T	A子さんと一緒に何かをやりたいという気持ちがとても強いんです。学校での生活ももう残り少ないんです。大いに楽しい思い出を作りたいなと思っっています。わかるかな。
	A子	今年で最後だからいろいろしたいです。先生と遊んだりするのは最後だと思っと思っています。
10/2	A子	手芸とかレース編みなどをしたいです。レース編みは難しいです。

内容例3 --- 自分自身を知、認めたいための働きかけの例など

10/4	A子	今日はたいさくで着けませんでした。
10/11	A子	先生はやさしい時とこわい時があります。おこした時ほどとむにわいておもしろい。わいてる時は、やさしそいな感じでは。
10/26	A子	四国に行かれたとこは、さかんなとこでしたか。
11/7	A子	副読本の時先生におこられないかと思てドキドキしました。
11/9	A子	先生は小さいころよくおこられましたか。それともおこらされてもよかったか。私は小さいころよくおこられました。

(2) 考察

自己の殻にとじこもり自分自身をさらけ出すことに極端に消極的であったA子が、交換ノートの中では相手を知ることも自分自身を知ってもらうことに努めている。また内容例2.3にみるように、意識的に自己の感情を抑えたり、偽たりすることはなく、ストレートにぶつけてきている。

日常生活の中でも、「M先生の前では給食が食べにくいので席をかえて下さい」といった申し出を自主的にする場面が見られるようになってきた。また、自己の内面にある欲求を抑え、自由時には自分一人で折り紙をしたり、うさぎ小屋に行き、えさをやるなどの行動の広がりを見せるようになった。さらに3学期には学級の係として「健康観察」の係に立候補し、毎朝皆の前で立って、健康状態をチェックする任務をきちんと果たしている。人前に立つことには極めて消極的であったA子だけに、その意識的な取り組みは、目を覚ますものがある。

こうしたA子の変化から、二人の信頼関係はA子にとって精神的な余裕となり、自主的な行動を引き出すきっかけとなっていることが考えられる。

4 反省と今後の課題

A子の緊張感がいくらか緩和されてきたとはいっても、A子の社会的不適応傾向は依然として強い。小学校4年より続く減点傾向に加え、青年期の初期にあるA子の心理は、予想を超える複雑さをもつ。目前に迎えた社会生活にどう対応し、やむを得ずA子の気持ちよりTの焦りが優先し、A子の心理解放を阻害している面がありはしないか。

A子が自主的に行動し、集団に適応していくためには、① 焦らない。② A子に対する関係からA子に対する以外の関係へと広げる。③ 受容しながら自己変革の意識を高めていく。といった点を絶えず意識しながら、A子への取り組みを続けなければならぬと考えている。